

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 52

Ben Webster 【ベン・ウェブスター】

～3大テナー奏者のひとりとしてジャズ史を飾る巨人～



Photo : "Kind of Webster" / Ben Webster (House Of Jazz)

Profile

1909年3月27日、米国ミズーリ州カンザス・シティ生まれ。本名は Benjamin Francis Webster。幼少の頃からピアノとヴァイオリンを習う。後にサクソフォンを学び始めてからもピアノを弾くことも多かったが、バド・ジョンソンに基本的な演奏法を教わって以来、サックス奏者としてレスター・ヤングも在籍していた“ヤング・ファミリー・バンド”に参加。32年にベニー・モーテンのバンドに参加。34年にフレッチャー・ヘンダーソン・オーケストラに参加する他、アンディ・カーカ、ベニー・カーター、キャブ・キヤロウェイのバンドやテディ・ウィルソン・ビッグ・バンド等で活動。35年にデューク・エリントン楽団と初共演を果たして以降、40年までエリントン楽団初のテナー・ソリストとなる。また、ベースストのジミー・ブラントと共にエリントン楽団の主要メンバーとなり、“ブラントン=ウェブスター・バンド”と称されて人気を得る。43年にエリントン・楽団を退団後はニューヨークを拠点に活動し、数々のレコーディングも行う。その後もジェイ・マクシャンのバンドやオスカー・ピーターソン、コールマン・ホーキンス、アート・ティタムとの共演でも話題となる。64年よりヨーロッパに移住し、イギリス・ロンדון、オランダ・アムステルダム、デンマーク・コペンハーゲンと移り住み、気が向いた時に演奏を行っていた。71年にはデューク・エリントンと再会し、デンマークで再共演を果たした。コールマン・ホーキンス、レスター・ヤングとともにスイング全盛期の3大テナー奏者のひとりと称され、ジャズの歴史を飾った。晩年は脳出血に苦しみ、1973年9月20日アムステルダムの病院で死去。遺体はコペンハーゲンで火葬され、同地ノレブロにあるアシステンス教会墓地に埋葬された。享年64歳。

BW's Great Album

ここに紹介した3枚のアルバム以外にも、数々のリーダー・アルバム、ゲストを迎えてのアルバムが存在し、時代ごとや激しいブロウにバラード作品と聴き分けても面白い。

ベン・ウェブスターの名演を収録



バラッズ

ベン・ウェブスター

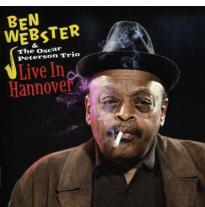
(ウルトラ・ヴァイヴ: OTCD-5836)

ベン・ウェブスター (ts)、トニー・スコット (cl)、ビリー・ストレイヒーン (p)、ウェンデル・マーシャル (b)、他

1. チェルシー・ブリッジ 2. ラヴ・イズ・ヒア・トウ・ステイ 3. イット・クッド・ハブン・トウ・ユーリー 4. オール・トゥー・スーン (他、全 19 曲)

ベン・ウェブスターが 1954~55 年にかけて、ビリー・ストレイヒーンやラルフ・バーンズがアレンジを施したストリングスのオーケストラを従えてレコーディングした名演全 19 曲（約 79 分）を収めたアルバム。テナー・サウンドの魅力、ジャズ・バラードの良さが伝わり、大人のジャズの雰囲気も漂う。サングラスをかけ、タバコを咥えたベン・ウェブスターの深いショットを捉えたジャケットも魅力で、ベン・ウェブスター入門としても最適。

ベン・ウェブスターの共演アルバム
オスカー・ピーターソン・トリオと



ライヴ・イン・ハノーファー

ベン・ウェブスター

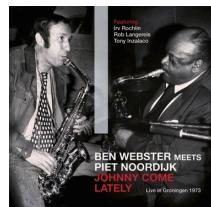
(Gambit Records: GAMBIT-69316)

ベン・ウェブスター (ts)、オスカー・ピーターソン (p)、ニールス=ヘニング・エルスティッド・ペデルセン (b)、他

1. ポウォティン 2. サンディイ 3. アイ・ガット・イット・バッド・アンド・ザット・エイント・グッド 4. パーディド 5. カム・サンディイ (他、全 10 曲)

1972年11月14日、
ドイツ・ハノーファーで行われたベン・ウェブスターとオスカーピーターソン・トリオとの共演ライヴを収めたアルバム。ベン・ウェブスターのブロウとオスカー・ピーターソンのピアノのスイング感が堪らない。サウンドから2人の貴録も体感できる。中でも「パーディド」の演奏はベン・ウェブスター～オスカーのソロへと最高の瞬間が連続する中、心地良くウォーキング＆スイングするペデルセンのベース・プレイも最高。

未発表ライヴ音源を収録した作品



ベン・ウェブスター・ミーツ・ピート・ノードワイル 1973

ベン・ウェブスター

(55 RECORDS: FNCJ-5618)

ベン・ウェブスター (ts)、ピート・ノードワイル (as)、イルフ・ロクリン (p)、ロブ・ランゲライス (b)、トニー・インザラコ (ds)

1. ソフィスティケイテッド・レディ 2. ジョニー・カム・レイトリー 3. スウィート・ジョージア・ブルワー 4. スロウ・ブルース (他、全 7 曲)

録音は 1973 年 2 月 2 日、場所はオランダ・フローニンゲンの「De Koffer」。このライヴの 7 か月後にアムテルダムの病院で息を引き取ってしまったベン・ウェブスターの最晩年のライヴ音源を収録。オランダのチャーリー・バークターと称され、当時 40 歳前半と自分より 2 回り年下の若きピート・ノードワイルの熱演に対抗するかの如く、ベン・ウェブスターが最高のブロウを聴かせてくれる。会場、聴衆の盛り上がりも臨場感たっぷり。

ビッグ・ベン、ザ・ブルート、フロッグ

ジャズ史にその名を刻んだジャズの巨人は親しみを込めて愛称で呼ばれることも多かったが、巨漢から放たれる大音量、野性味溢れる豪快なブロウから、ベン・ウェブスターが“ビッグ・ベン”、“ザ・ブルート（野獣）”と称されていたのは納得。加えて、テナーを吹きながら声を出して、音を濁らせる奏法=グロウルを多用し、熱が入ると白目を剥いてグロウルすることで“フロッグ（蛙）”とも呼ばれていた。本人も納得していたのか、他のジャズマン達が本人の前で呼んでいたのかは定かではないが、“ガマ蛙”的なイメージだったのだろう。

映画『カンザス・シティ』

1996年に公開されたロバート・アルトマン監督の仏米合作の映画で、1930年代に活躍していたジャズマン役を現役のジャズマンが演じて話題にもなった『カンザス・シティ』。1932年にベン・ウェブスターがベニー・モーテンの伝説的なバンドに加わる頃の模様も描かれており、ベン・ウェブスター役はジェームズ・カーターが演じた。その他、レスター・ヤング役はジョシュア・レッドマン、コールマン・ホーキンス役はクレイグ・ハンディ、カウント・ベイシー役はサイラス・チエスナット、ジョー・ジョーンズ役はヴィクター・ルイスが演じている。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) Vol.25 ~ Desafinado 【デサフィナード】 ~

この曲はアントニオ・カルロス・ジョビン作曲、ニュウトン・メンドンサ作詞により1959年に発表されたボサノヴァ・ナンバー。ポルトガル語で意味は「音痴／音はずれ」。1962年録音のスタン・ゲッツ＆チャーリー・バードの『ジャズ・サンバ』や1964年録音のスタン・ゲッツ・ジョン・ジルベルトの『ゲッツ・ジルベルト』の大ヒットによりジャズのスタンダードとして定着した。また、ジョージ・マイケルがアストラッド・ジルベルトとの共演で発表もしている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

コールマン・ホーキンス『デサフィナード』

エラ・フィツジエラルド『エラ・スウィングス・ライトリー』

デイジー・ガレスピー『ニュー・ウェイヴ + デイジー・オン・ザ・フレンチ・リヴィエラ』

ハーブ・アルバート & ティファナ・プラス『ザ・ロンリー・ブル』

ジョアン・チャモロ『プレゼンタ・ラ・マヒア・デ・ラ・ヴェー』